

# 国民の多数は反対 許せない消費税増税

# たたかいはこれから



商店街で、消費税増税の影響や営業、くらしの実態を聞く（8月26日、港区・白金商店街で）

「国民の変化についていけない政治と一緒に変えよう」と訴える（8月25日、高田馬場付近で）

## 国民の変化に対応できない政治を変えよう

8月10日、参議院で消費税増税関連法案が成立しました。

私は、この日の参議院での委員会を含む討論、採決と前日の衆議院での内閣不信任案の討論、採決を傍聴しました。不信任案は否決

されましたが、否決した側の議員たちが下を向き、元気のなさが異なる印象として残りました。

世論が作った7野党共同

一方、メディアで語られない、生き生きとした野党共同の姿を目的にしたりしました。参院の特別委員会では、自民・公明以外の各野党委員が、共産党委員の席に来て相談してから発言していました。

消費増税に反対の世論にこたえて、日本共産党が国民の立場でのまとめ役を果たしていること、大変新鮮な印象を受けました。参議院では、3党密室談合を厳しく批判する野党7党の問責決議が可決。最後は自民党も賛成せざるをえなくなりました。画期的です。

連日、新しい出会いが

いま、私は街頭で「増税反対勢力を衆・参院と



野党7党が衆院に提出した内閣不信任案否決直後、傍聴につけかけた人たちとともに志位和夫委員長、共産党国会議員団の情勢報告を聞く（座っている前列左、8月9日）。

もに選挙で多数にすれば再来年の消費増税を止められます」「そのために『消費税に頼らない別の財源』を示している共産党の躍進を。私を国会に送って、一緒に歴史をつくりましょう」と訴えています。

最近、地域の行事や街頭宣伝中、「ポスターで見ました。原発はどう考えていますか？3・11以来注目しています」「現職に挑むんですね。応援しますよ」など声をかけてくださる方が増え、手ごたえを感じます。全力でがんばります。

日本共産党衆議院東京1区（千代田・港・新宿区）

国政対策委員長・若者相談室長

No.34 2012.9.16

発行：富田なおき事務所



## 富田なおきの つながる通信

〒162-0065 新宿区住吉町11-25

TEL 03-3357-3392

FAX 03-3353-4912

E-mail

tomitanaoki.jimusyo@gmail.com



# 自治体の要請もないのに… 自衛隊単独の「防災」訓練は何のため？

7月16日夜から17日にかけて、東京23区全域で、陸上自衛隊練馬駐屯地の隊員が「訓練」を行いました。「訓練」は自衛隊の「地下直下地震対処計画」の見直しが理由とされていますが、自衛隊は計画の内容公表を拒否しています。各区議団に聞き取った内容をもとに考えます。

自衛隊が持ちこんだ「訓練」

今回の発端は、6月26日の23区防災課長会で自衛隊から話があり、「詳細は各区に連絡する」との簡単な説明だったとのこと。

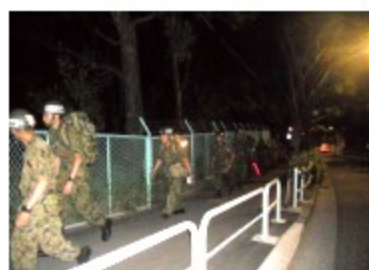
実際に行われた訓練のうち港区では、(1) 徒歩機動訓練として、午前0時頃区庁舎前まで徒歩でやってきて、中に入らず引き返したというもの。区の職員は対応しなかったそうです。(2) 無線通信訓練として、迷彩服の隊員が区役所に午前6時頃到着し、屋上で9時まで待機、10時ころまで訓練実施(当初は庁舎内5階で行おうとしていた)。区の対応は屋上への誘導。

新宿区では、予告されていない区管理の広場に、迷彩服で43人で行ってきました。「訓練」には区職員も立ち会っていません。

災害時に、消防の力でも足りない

ケースで、自衛隊が救援活動を行うのは当然のことです。しかし、その場合も、都道府県知事などの出動要請が前提です。防災訓練は、住民に密着した自治体が主体で、消防、警察、事業者、住民とともに連携してこそ、国民の生命と安全を守れるのではないのでしょうか。

自治体の要請もなく自衛隊単独で、しかも「防災服」があるにもかかわらずあえて迷彩服で行った訓練は、災害対応に名を借りた軍事訓練だと言わざるを得ません。シビリアンコントロール(文民統制)を揺るがしかねない暴挙に抗議するものです。



住民も「何事か」と驚いた歩行部隊(写真右。7月17日未明、新宿区・箱根山通り。撮影：大山とも子都議、提供：近藤なつ子区議)、抗議する港区議団(写真左・同日朝6時前。撮影：大滝実区議、横断幕を持つのは風見利男区議)

## 富田なおき事務所の法律相談日

9月21日(金)、10月19日(金)、11月16日(金)

原則として毎月第3金曜日に開催、弁護士が相談に応じます。事前にお電話でご予約ください。



TEL 03-3357-3392

午後6時30分から当事務所(都営新宿線曙橋駅から徒歩3分)にて

## 富田なおきの へのへのもへ路⑩



園内の一角に、動物たちの慰霊碑があります

8月なかば、涼しさと正反対の場所に行ってきました。上野動物園でおこなわれた「まなつのよるのどうぶつえん」は、普段みられない、動物たちの夜(8時まで)の姿を見られる貴重な機会。飼育係さんの説明を聞くこともでき、汗のような汗をかきながら、息子と二人で楽しんできました。8時までとはいっても、動物の生態によっては、展示の時間を制限していたのは、さすがに商業主体でなく、教育目的がはっきりしている上野動物園だと感じしました。動物園入り口近くにある、ここで死んだ動物たちの慰霊碑には必ず立ち寄ることにしています。戦争末期に国の命令で殺された動物たち、毒や銃がきかす餓死させられたソウたちのことを息子に語り継いだ夏休みでもありました。

次期首相と騒がれる政治家が「慰安婦は強制でなかった」などと戦争の犠牲を小さく見せることに熱心な様子を見て、「歴史に目をそむける勢力には来はない」と確信しながらこの原稿を書いています。

(8月28日記)